

鈴木淑博(すずき よしひろ)先生著書の本のご紹介

題名: 子どもと楽しく遊ぼう 読書へのアニメーション

- おすすめ事例と指導のコツ -

著者: 黒木秀子・鈴木淑博

出版: 学事出版株式会社

〒101-0021 東京都千代田区外神田2 - 2 - 3

電話 03-3255-5471

<http://www.gakuji.co.jp>

鈴木先生のご紹介

1956年生まれ。慶應義塾普通部に勤務。91～95年、慶應義塾ニューヨーク学院(高等部)勤務。99年、集英社主催「第八回読書指導体験記コンクール優秀賞」受賞。2000年、スペインにて「読書へのアニメーション・セミナー」を受講。東京都小学校図書館研究会などでアニメーションの講師を務めなど、わが国に読書へのアニメーションをどのように導入するか実践中。



「読書へのアニマシオン」とは何か

「読書へのアニマシオン」は、スペインで生まれた読書教育法です。「アニマシオン」という言葉は、スペイン語で活性化すること、躍動する事という意味です。

子どもの本離れは、子どもが本を「読めなくなっている」からで、それならば「読めるように」子どもを育てる必要があります、その具体的なやり方は遊びのスタイルがふさわしい。

教育には、先生が生徒に知識を伝授する「(スペイン語の)ディダクティカ」と子どもの能力を引き出す「エデュカシオン」の両方必要だが、「読書へのアニマシオン」は後者のエデュカシオンに徹する活動である。

アニマシオンは知的で創造的な「遊び」です。したがって、本を読むことを強制しません。

自分から読んでみようという力、自分で次に読む本を選ぼうという力を小学校時代に身につけることが大切です。そして、中学生、高校生の時期は、「考えるために読む山」に登る段階です。

もくじ

第1部 読書へのアニマシオンの神髄と指導のコツ

- 1, 「読書へのアニマシオン」とは何か
- 2, 子どもの成長と「読書へのアニマシオン」
- 3, アニマドールの役割
- 4, 本の選び方
- 5, 本の揃え方
- 6, 素材づくり
- 7, 作戦進行のコツ
- 8, 著作権について

第2部 子どもと遊ぼう 読書絵のアニマシオン

- 読み聞かせに興味を持たせる < 幼・小低 >
- 登場人物を見分ける < 小低・小中 >
- 登場人物に着目して作品を理解する < 小中・小高 >
- 自分の考えを表現できる < 小高・中高 >
- 人物像を鮮明にする < 小高・中高 >

以下 省略